

<本テスト>

1. ムンバイ（旧ボンベイ）とチェンナイ（旧マドラス）と富山の気候（気温・降水量）の違いについて述べなさい。

2. 「82年5月のある日、ガンジス川に臨むビハール州モンギール市内で、大学生ジャイナンダン・クマールさん（23歳）は、近くの村の友人の結婚式にでかける途中、銃をもった4人の男に取り囲まれ、同市から数キロメートル離れたある村の大きな農家に連れ込まれた。クマールさんは、てっきり強盗かと思い込んだが、男たちの要求は意外なものだった。『おまえにこれから、ある娘と結婚してもらう』……もちろん、クマールさんは拒否したが、『いやなら、おまえを殺すしかない』と銃で脅かされ、やむなく承諾。やがて夜になると、金の刺しゅうの付いたきらびやかな花嫁衣装に身を包んだ美しい娘が、クマールさんの隣に坐った。そして、ヒンドゥーの古式にのっとっての結婚式。クマールさんが娘と中庭に降り立ち、たき火の廻りを7周すると、2人は“晴れて”夫婦になった」（五島昭『インドの大地で』中央公論者、1986より）

花嫁は銃でうばえ！ 男性諸君にとってインドはなんてすばらしい国なんでしょう。

ところで、皆さん、あなたがクマールさんだったらどうします？

今、皆さんの目の前で、あなたは銃を突きつけられ、結婚しなさいと脅迫されています。ただし、条件付きです。将来の伴侶をヒンドゥー教徒（H）かイスラム教徒（I）のどちらかから選ばねばなりません。以下の解答欄に、Hを選んだ人は何故HでIを選ばなかったのか（Iを選んだ人はその逆）、その理由を、カースト社会あるいはヒンドゥー教、イスラム教の神観念、人生観、礼拝、教典、規範などを思いめぐらして、述べなさい。さらに結婚後の将来設計を語って下さい。

女性がインドで結婚のために誘拐される話はまだ聞いたことがありませんが、今日は別です。女性の方も答えて下さい。

3. 第三世界の国々に対する開発と援助に関して考えることを述べなさい。

4. 『インド・いちば・フィールドワーク』を読んで考えたこと、あるいは講義を通して感じたことを述べなさい。

5. ここにインド、ネパール、バングラデシュの概略図を書きなさい。その地図に、国名とダッカ、ムンバイ、チェンナイ、カトマンドゥの地名をその位置に書き入れなさい。さらに、赤道の位置を示しなさい。

6. ここに、ヒンドゥー教の神カーリーかガネッシュの絵を描きなさい。